

リスクアセスメントの留意事項

危険要因の洗い出し

● 危険要因の洗い出しの目のつけどころ（伐木造材作業の例）

- ① かかり木処理作業でかかり木の下敷きになる恐れはないか。
- ② 伐倒木が隣接木に接触、伐倒方向が変わり、伐倒木に激突される恐れはないか。
- ③ 強風等で伐倒方向が変わり、伐倒木に激突される恐れはないか。
- ④ 伐倒作業で退避場所が悪く、伐倒木に激突される恐れはないか。
- ⑤ 伐倒作業で、他人の伐った伐倒木に激突される恐れはないか。
- ⑥ 伐倒作業中、枝条が飛来落下してきて、激突される恐れはないか。
- ⑦ 枝払い・玉切り作業中、チェーンソーのチェーンが跳ねて、足を切る恐れはないか。
- ⑧ 枝払い・玉切り作業中、他人のチェーンソーで切創する恐れはないか。
- ⑨ 作業中、丸太等が転落、滑落してきて、激突される恐れはないか。
- ⑩ 滑ったり、転んだりする箇所はないか。
- ⑪ 作業にあった機械・器具・保護具を使用しているか。
- ⑫ 作業者の年齢、経験年数から見た人の配置は適正か。
- ⑬ 現在の作業仕組みで危ないところはないか。

● 留意事項

危険要因の洗い出しを行う場合は、上記の「目のつけどころ」を参考にして、次のことに留意しましょう。

- ・対象作業の作業の流れから見つけ出しましょう。
- ・対象作業をわかりやすい単位で区分しましょう。
- ・現場に入っていき、危ないことはないかという目で、現場で問題となっている危険要因を洗い出しましょう。
- ・機械は故障する、人はミスをする、ということを前提に作業現場をよく観察してみましょう。
- ・細かいことにとらわれず、災害発生率の高い危険要因に重点をおいて洗い出しましょう。
- ・いろいろな立場の人から意見を聞くようにしましょう。
- ・危険要因の洗い出しは次のリスク見積りにつなげるため、「～するとき、～して、～になる」という形で表しましょう。